Ⅴ．研究の全体構造図（R８年度）

【研究主題】

社会認識を深め、社会とかかわり続ける力を育む社会科学習の創造

～再考を通して、児童の価値認識の確立を目指す～

【目指す子ども像】

・社会的事象を深く学び、社会認識を深めていく子ども

・主体的な学びを通して、社会とかかわり続ける子ども

【研究仮説 1】

子どもの社会認識を形成するためのプロセスを意識した単元構成を工夫することで、学びを通して主体的に社会にかかわり続ける子どもを育成することができるだろう。

【研究仮説 2】

社会的事象から「なぜ？」「どうして？」と疑問をもたせ、探究する授業構成を工夫することで、社会的事象を深く学ぶ子どもを育成することができるだろう。

【研究仮説 3】

子どもの実態を踏まえた学習の中で一人一人の学びを的確に評価することで、自分の考えを深め、社会に関心を持ち続ける子どもを育成することができるだろう。

【研究内容１】

子どもの社会認識を形成していく単元構成の工夫

①社会認識を獲得するプロセスを意識した単元構成の工夫

②身近な素材を教材化し、学びを通して社会とかかわる場の設定

【研究内容２】

「なぜ？」「どうして？」と疑問をもたせ、社会的事象を探究する授業構成

①問いや資料・教材の吟味

②社会的事象を探究し、捉えなおす（再構成）場の工夫

【研究内容３】

学びを深め・子どもを伸ばす評価

①評価の種類と活用

②思考をまとめ・思考の伸びを見るために「書く」

【江別市研究内容Ｉ】

子どもの主体性を引き出す単元構成の工夫

(1) 学習の最終目標（児童視点）を設定し、見通しをもたせる。

(2) 身近な素材の教材化により、学習意欲を向上させる。

【江別市研究内容２】

再考によって児童の価値認識を決定づける場の設定

(1)「思考のずれ」を意図的に生み出し、価値認識の確立につなげていく。

(2) 再考して得た価値認識を表現する場を意図的に設定する。

【江別市研究内容３】

価値認識を見取ることができる振り返りの場の設定

(1) Ｉ単位時間ごとの学習の振り返りを蓄積していく。

(2)社会認識形成へとつながる振り返りの仕方を工夫する。